

第11回

たけのまたまさつな
竹俣当綱の墓
(南原横堀町)



竹俣当綱像 上杉博物館蔵



竹俣当綱の墓は、常慶院本堂の南東、竹俣家墓域の隅にあります。

今回は、南原横堀町の常慶院墓地に建つ竹俣当綱の墓を訪ねました。当綱は上杉治憲(鷹山)時代の奉行(国家老)で、藩政改革を主導した人物です。

名門竹俣家に生まれ
奉行に昇進

当綱は享保14年(1729)9月17日に竹俣本綱の長男として誕生しました。竹俣家は、越後時代は竹俣城(新発田市)の城主で、上杉家に従い会津・米沢に移った名門です。

当綱3歳の時に父が病死し、18歳の時に祖父より家督・禄千石で侍組に入ります。宝暦11年(1761)には江戸家老に昇進し、同13年に藩主重定の寵臣・森平右衛門を誅殺しました。その後、奉行に昇進し国政を担当、重定に儉約や改革を迫りますが容易に進みません。当綱は重定に隠居を進言、明和4年(1767)ようやく重定は48歳で隠居しました。

改革を主導するが失脚

第9代藩主となったのが養子の治憲(鷹山)で17歳でした。当綱は39歳、鷹山の右腕として藩政改革を力強く主導します。江戸の豪商三谷家から資金援助を受け、漆・桑・楮の各百万本植立、越後から縮織職人を招聘、郷村出役の

派遣などの農政改革、藩校興譲館の開設など、諸改革を断行しました。

しかし、改革の成果は直ぐには表れず、天明2年(1782)に取行不届の理由で隠居押込の処罰を受けました。当綱は幽閉中でも改革意見書を書き続け、後には罪も赦されましたが、寛政5年(1793)に65歳で死去しました。法名は大忠院殿雄山良英居士です。

平洲の墓碑銘と
その後の顕彰

墓は竹俣家の菩提寺である南原の常慶院にあり、鷹山の師・細井平洲の記した墓碑銘が刻まれています。平洲は、邪を払ったこと(森誅殺)、鷹山の先生に儒学者を採用し学問を広めたこと、農村に教導役を派遣し教化したことなどの功績を讃えています。また「物を処する果敢なり、故に毀誉は交ごもに至る」と、強い決断力があり、そのため評価が分れるとも記しています。改革を始めるには、こうした強いリーダーシップが必要であったと思われれます。

その後、次第に改革の成果が表れ、天保7年(1836)に上杉斉定は幕府より鷹山以来の善政を賞されました。その際、当綱は中興第一の功臣として碑面に銀10枚が贈られます。また、明治41年には正五位に追贈、昭和13年には松岬神社に合祀されました。

たどり着いたのは、米沢

埼玉から移住した池田さんご夫婦。この日は、自宅近くの林道一念峯線で撮影にご協力いただきました。撮影中、偶然通りかかった近所の人採れたのみようがをご夫婦におすそ分け。そんなこの地の人の優しさが、移住者を呼びこむ力なのかも知れません。(8月19日撮影)



表紙
紙説
解